

第16回アジア競技大会 2010											
大会名		16th Asian Games 2010 Guangzhou			日付		2010年11月18日 19:30~				
場所		Aoti Hockey Field			天候		晴れ				
試合数		予選リーグ第2戦			通算結果		1勝1敗				
Country				RESULT			Country				
日本 JAPAN				Full Time 2 - 8 Half Time 1 - 3			パキスタン PAKISTAN				
Start	No.	Name		Card		Start	No.	Name		Card	
×	1	小澤和幸				×	4	ASHRAF Zeeshan			
×	2	三澤孝康				×	5	ZUBAIR Muhammad			
17	3	粥川幸司				×	6	AHMAD Waseem			
×	5	塩川直人				8	7	IRFAN Muhammad			
15	6	三谷元騎				×	8	IMRAN Muhammad			
	7	長岡俊輔 (GK)				×	9	ABBASI Shakeel			
	8	畠山学				×	10	BUTT Rehan			
×	9	山堀貴彦				8	11	RIZWAN Muhammad			
×	10	穴井善博		56' Y		×	12	AKBAR Salman			
×	11	北里謙治				7	13	HASEEM KHAN Abdul			
×	12	坪内一浩 (CAP)				×	14	AHMED Fareed			
×	14	長澤克好				8	15	WAQAS Muhammad			
×	19	川上啓				×	17	RASOOL Shafqat			
×	20	高瀬克也 (GK)				×	18	RASHID Muhammad			
10	22	小野知則				7	19	TOUSIQ Muhammad			
×	23	坂本博紀		45' G		×	23	ABBAS Sohail			
Coach		Siegfried Aikman				Coach		van den HEUVEL Michel			
UMPIRE		CHEN Dekang (CHN)				UMPIRE		JANG Jungmin (KOR)			
Country	Min	Name		Action	Score	Country	Min	Name		Action	Score
JPN	3	北里謙治		PC	1-0	PAK	55	WAQAS Muhammad		FG	1-5
PAK	4	AHMED Fareed		FG	1-1	PAK	61	IMRAN Muhammad		PS	1-6
PAK	20	ABBAS Sohail		PC	1-2	PAK	64	ABBASI Shakeel		FG	1-7
PAK	29	RIZWAN Muhammad		FG	1-3	JPN	66	坪内一浩		PS	2-7
PAK	51	ABBAS Sohail		PC	1-4	PAK	70	ZUBAIR Muhammad		FG	2-8
(前半)											
プールマッチ第2戦の相手はパキスタン。セミファイナル進出に向けて絶対に落とせない試合である。初戦の反省を生かし、過度な緊張感を持たないよう、試合前のミーティングには細心の注意が払われた。											
最初のチャンスは日本。左からNo.11北里が持ち込み中央にセンタリングを入れると相手のミスも重なりPCを得る。パントのバリエーションから北里がGKの足元を抜くシュートを決め、幸先良く日本が1点を先制する。しかし直後の4分、左から持ち込まれてNo.20GK高瀬がスライディングをかけたところを上手く外され技ありのシュートで、あっという間に同点に追いつかれてしまう。その後は一進一退の攻防が続いたが20分、パキスタンにPCを与えてしまうと、1本目はNo.2三澤が体を張ってシュートをブロック。しかし2本目は世界No.1フリッカーのNo.23 Sohail ABBASに決められ逆転を許してしまう。なおも攻撃の手を緩めないパキスタンは29分、No.11 RIZWAN Muhammadが1人で持ち込み、最後は角度の無いところからリバーシットを放つと、GK高瀬は一步も動けず3点目を喫してしまう。前半はパキスタンが2点をリードして折り返した。											
(後半)											
前半はレシーブ、ストロークといった基本的なプレーのミスが続き、終止相手ペースでの戦いを余儀なくされた日本であったが、気持ちを切り替えて望んだ後半は互角の展開となる。No.23坂本、北里らスピードのあるアタッカーが素早いターンオーバーでチャンスメイクする。それでもパキスタン守備陣の壁は厚く、決定的なチャンスを作れない。逆にこの試合3本目のPCを与えてしまうと、またしてもSohail ABBASに豪快なドラッグフリックを決められてしまう。ここからは日本は守備の時間が長くなり立て続けにゴールを許してしまう。なんとか1点でも返したい日本は66分、坂本、北里とつなぎ、サークル内でこぼれたボールをNo.9山堀がシュート。パキスタンDFの故意の反則で得たPSをNo.12坪内が落ち着いて決める。しかし反撃もここまで、終了間											
						日本		41%	ボール保有率	59%	パキスタン
								4	シュート数	11	
								3	PC数	4	